

労働農民黨三團體排斥に就いての聲明書

去る七月二十六、七兩日大阪中央公會に於て開催された、労働農民黨第三回中央委員會は、「黨の基礎が確立するまで」許す慶會、青年同盟、大衆教育同盟の所屬員の入黨を拒絶し、水戸社無産者同盟に對しては、その態度を保留するといふことを決議した。

抑も、労働農民黨は、昨年第一次労働農民黨が政府の彈壓により結黨を禁止された後、再度、農工組合を中心とする、無産者黨再組織運動の努力の結果、去る四月新黨式を擧げるに至つたのであつた。而して五月中旬第二回中央委員會に於て、唯一票の差であつたことは、購へ、入黨者に係る制限は撤廃され、ここに労働農民黨は、名實併ふ全國的單一無産者黨としての發展の可能性を與へられるに至つたのである。

然るに第二回中央委員會の門戸開放の決議は、俄々三ヶ月を経過した後に開催された、第三回中央委員會に於て無條件にも蹂躪され、最も嚴厲的な三無産團體に對し、黨は門戸を閉鎖した。

而して三團體に對する入黨拒絶は、ひいては、全團に於ける既設の支部、支部聯合會に對する承認の保留となり、ために我國唯一の

全國的大衆的無産者黨は、頭のかの黨として存在するといふが如き奇觀を呈するに至つた。

無産階級の要望を無視した斯ふな中央委員會の決議に對する、労働大衆の抗議の運動は、今や全国各地に於ける黨支部、又は支部設立準備會から捲き起されつゝある。

支配階級の彈壓と、右翼階級のあらゆる妨害にも拘らず、單一政黨組織のために、幾多の阻害、難關を突破するにまつて、漸く黨を成立せしめ、ブルジョアの政治的支配に對する闘争を正に開始せんとする時、反動階級の手に加つて、大衆無産者黨が、その本来の精神を失ひ得たにこれ、小ブルジョアの階級黨にまで變質されたことに對し、労働大衆が抗議の運動のために奮起したのは當然であつて、吾等も亦、黨中央委員會の決議に對して、反對するものである。

吾等は先づ労働農民黨第三回中央委員會に現れた決定が、無産階級の要求を真切り、ブルジョアに對する屈從であり、而して三團體排斥が大衆的無産階級の破壊であつて、それは黨をブルジョア黨化する